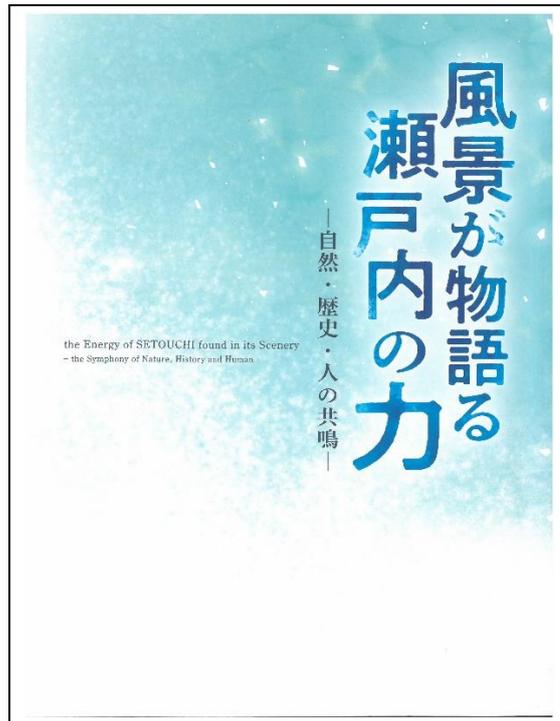


風景が物語る瀬戸内の力

-自然・歴史・人の共鳴-



ごあいさつ

瀬戸内海は、日本最大の内海として、本州・四国・九州にある十一府県の沿岸によって囲まれ、内海に浮かぶ島々は七百以上あります。古くから、多島海の豊かな自然に、人々が積み重ねてきた歴史や暮らしが溶け込み、自然景と人文景が共鳴した風景が広がります。

瀬戸内海の自然の特徴には、花崗岩などにより形づくられた島々、巨岩・奇岩や白砂青松、海域の地形が生み出す瀬戸と灘、潮の干満から起こる潮流などがあります。そうした瀬戸内海は大陸への大動脈として人々の重要な海の道の役割を果たしています。多くの港が発達し、潮待ちの町の暮らしや漁撈、製塩、自然条件を活かした農業などの営みも発展しました。源平合戦や交易船が行き交う歴史の舞台ともなり、一方で理想化された景観として、古典の物語や寺社縁起の題材にもなりました。

昭和九年(1934)には、日本初の「国立公園」に指定され、多島海などの豊かな自然と人々の歴史や暮らしが織りなす景観は、今日も守り、育て続ける環境として、私たちの暮らしの中にあります。

本展は、瀬戸内国際芸術祭2022参加展覧会であり、瀬戸内海をメインテーマに厳選された約百点の絵画だけに的を絞り、中世から現代まで描かれ続けるその風景を歴史、民俗、美術、自然などの多面的な視点からひも解くものです。風景が物語る瀬戸内の力を再発見し、未来に向けて残し伝えていくべき景観や人間との関係性について考える糸口になれば幸いです。

令和四年九月

香川県立ミュージアム 館長 象山稔彦

(7101309768)